

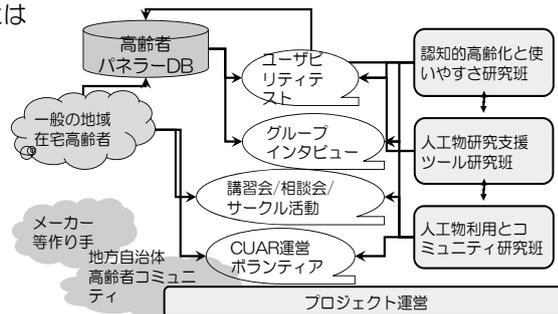
「高齢者による使いやすさ 検証実践センターの開発」



高齢者による使いやすさ検証実践センターの開発

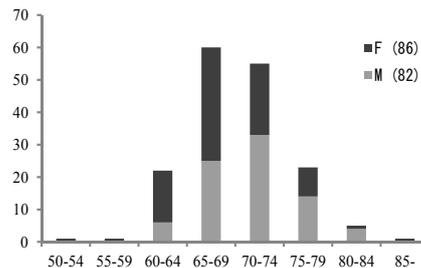
みんなの使いやすさラボ（略称 みんなラボ）とは

- ◆地域在住高齢者にとって
いつでも参加活動できる
地域での活動拠点
- ◆メーカーorサービス提供者にとって
いつでも施設&潜在的パネラーを
利用可能な資源
- ◆研究者にとって
認知的加齢と使いやすさの研究拠点



会員募集とデータベース登録

- ・シルバー人材センター，体操教室などを通じて，登録者を募集
- ・1時間弱の登録手続き … プロフィール情報 モノ利用状況，認知的加齢テスト 態度・価値観 コーヒーメーカー調査 他
- ・現在 N=168 (M82, F86)
- ・年齢平均 69.54歳 (SD 5.19)



登録会員向けサービス みんなラボカフェ：

「モノづくり側との対話の場」15-20名、先着順、誰でも参加可

- 1) 1/13 アズビルあんしんケアサポートシステム(株)「緊急通報システムってご存知ですか？」
- 2) 4/27 テルモ株式会社「継続して快適に測定できる血圧計」
- 3) 5/19 玉川大学/岡田浩之「お家の中のロボット、あなたは何をしてもらいたいですか？」
- 4) 6/7 (株)ニフティ・松井くにお「使いたくなるインターネットって何ですか？」
- 5) 7/24 キッズデザイン協議会「キッズデザイン協議会のめざすもの」
- 6) 9/28 ハウス食品株式会社「食品包装の使いやすさを考える」
- 7) 10/26 名古屋大学/河野直子「車社会の『老い支度』：生活と社会のデザインを考えてみませんか」
- 8) 12/7 富士通株式会社「『家族みんなが楽しく、簡単に、安全に！』を目指すタブレットづくり」
- 9) 1/25 HALデザイン研究所「『普段着のまま人の動きが測れる新技術(キネクト)』
- 10) 2/22 (予定) 産業総合技術研究所の山本吉伸氏「城崎温泉を事例としたサービス工学によるまちづくり」
- 11) 3/13 (予定) 富山大・中林P「歩行支援ツールを用いた歩行圏コミュニティづくり」



#2 血圧計 #3 ロボット #5 キッズデザイン #6 食品包装 #7 車社会

さらに 新しい制度を構想/試行中

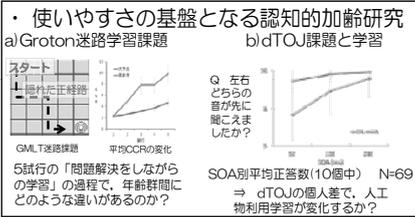
- ◆ みんなラボ研究員プロジェクト
 - ・・・・高齢DB登録者がグループで「使いやすいデザイン」を検討・分析
 - ・「高齢者に使いやすい病院を考える」チーム 2013/2/14より開始
 - ・「みんなラボカフェの成果を公開していく」チーム
- ◆ みんなラボパートナー制度
 - ・・・・みんなラボに興味をもつ研究者・実践者のコンソーシアム (年会費10万円 予定)



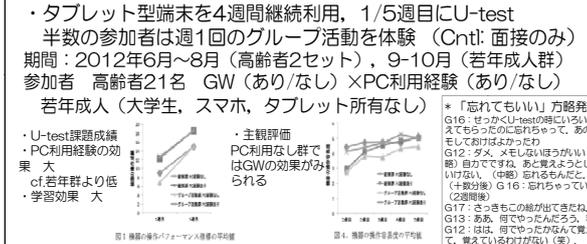
筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了（心理学専攻・教育学博士）。日本アイビーエム（株）東京基礎研究所（認知工学グループ）での3年間の研究員生活の後、法政大学社会学部を経て、現在筑波大学大学院人間総合科学研究科（人間系心理学域）教授。
人間の頭の中の働きを機能面からとらえる認知心理学・認知科学をベースとするが、仮説実証的な実験室研究と、現実の機器システムを対象とし「人にとっての使いやすさ」を実証的に明らかにしていくフィールド研究（認知工学）とを車の両輪として進めていくことが、真に役に立ち、かつ意味のある心理学研究への道」と信じて研究を進めている。

◆**認知の高齢化と使いやすさ研究班**（原田悦子）

【問題】ユニバーサルデザイン原理（一人にとって使いにくいものは、すべての人にとって使いにくい）は基本的に成立しているにもかかわらず、なぜ高齢者に特異な「使いにくい」問題が発生するのか？
仮説：「悪いデザイン」を自力で乗り越えるための学習過程が加齢により異なる？
どうすればその学習を支援できる？



タブレット継続利用実験【新しい人工物利用の学習に「仲間と接触する機会」「先行利用経験」が与える効果の実証実験】



在宅用医療機器のユーザビリティとは何か
対象：非侵襲型在宅人工呼吸器（NPPV）
参加者：高齢者12名、大学生12名
使用時の「不安感」：高齢者の特徴として & 医療機器の問題点として



◆**人工物利用とコミュニティ研究班**（茂呂雄二）

目的：みんラボを中心とした高齢者による高齢者のための機器評論コミュニティ創出に向けた基礎資料収集

高齢者同士のつながりのあり方：動機、様態、媒介
半構造化面接法によるつくば市高齢者の社会的ネットワークの記述

高齢者同士の現実のつながりの媒介性と複雑性
庄内ならびに上田市の高齢者コミュニティのエスノグラフィ

iPad教室開催を通した、高齢者の自助的機器使用とコミュニティ構築条件の探索

垂直的学習、水平的学習、関係的学習の発生
既有知識、過去の経験、現在の関心事との統合による新しい活動の創発。

複数のネットワークへの所属は、高齢者の活動への指向性の高さを意味する。適切な介入があれば、新しい活動を開拓可能。
交換あるいは経済活動の有意義性。交換活動による、単なるコミュニティへの参加ではない、真正性・追真性の確保。

iPad教室の発表分析：2項目と3項目の発表力テロリ比較
高齢者の活動の動機とソーシャルメディア

茂呂雄二・後安隆士・新原得義・追木田礼穂（筑波大学）
茂呂雄二（筑波大学）、香川秀太（大正大学）、上野直樹・ソーヤ理恵子（東京都立大学）
茂呂雄二・中村聖・守下奈美子・岩木稜（筑波大学）

◆**人工物利用支援ツール研究班**（葛岡英明）

目的
みんラボの研究を支援するツールの開発と提供
1.家電製品の利用ログを検出、蓄積、分析するツール
2.機器利用支援するコミュニケーションツール

新型圧力センサ台
タブレット端末のタッチ操作圧力の時間的な変化を検出可能。

高精度圧力センサ
ロードセル：東洋測器1022-10K
精度：約10g
サンプリング周波数：約30Hz

タブレット端末操作圧力・時間の比較

ホーム 起動 長押し 停止 スライド スワイプ スワイプ 拡大 回転

被験者：高齢者16名、大学生10名

圧力の主効果 p < 0.01
操作の主効果 p < 0.01
交互作用 p < 0.01

圧力の主効果 p < 0.01
操作の主効果 p < 0.01
交互作用 なし